

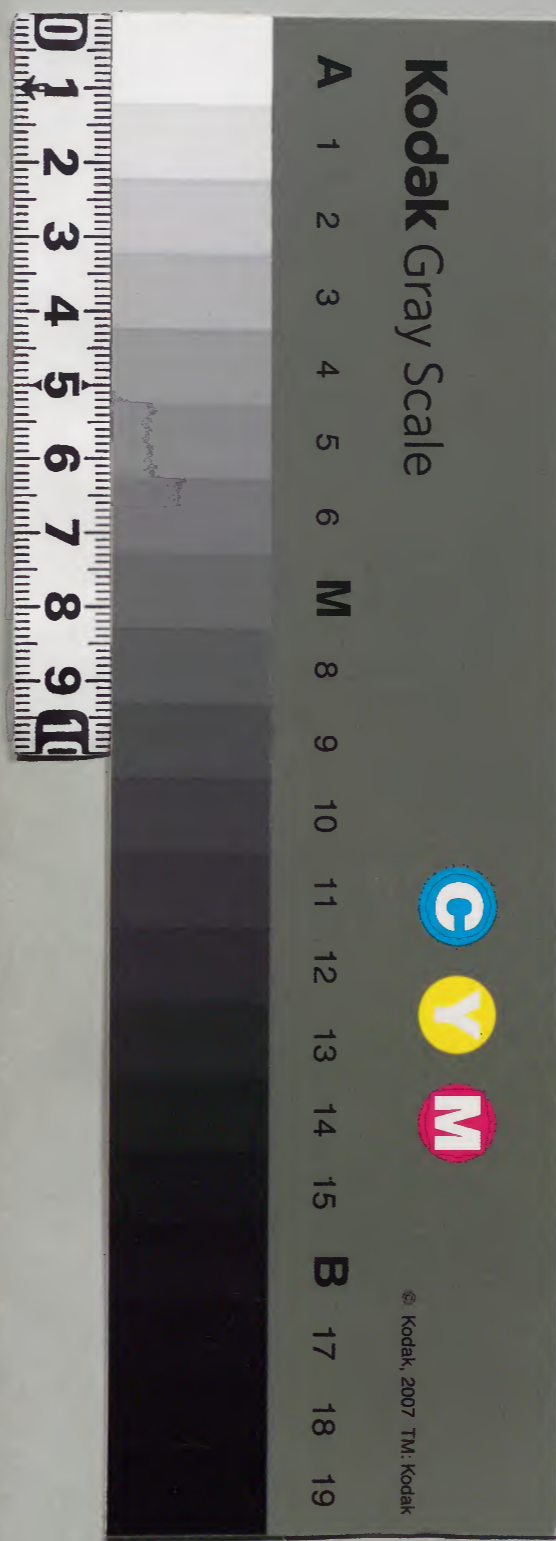
元治記事

八

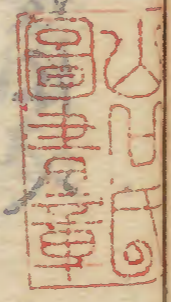
和書門			
一七冊	一四架	二〇三函	一五八七四號
類			

庫文閣内		
一五函	一五八七四	和書
三架	冊	號
類		

内閣文庫	
番號	和 15874
冊數	17 (8)
函號	151 20



長列藩士村長伊助ノ立上ノ次第



一長列事情ノ立上候上ノ身ノ立上ノ程志ノ好

始終好信ノ計ノ身ノ立上ノ程志ノ好

最上ノ事ノ計ノ身ノ立上ノ程志ノ好

美談悲歎憂苦ノ情ノ身ノ立上ノ程志ノ好

立上ノ具ノ形ノ身ノ立上ノ程志ノ好

中ノ立上ノ程志ノ好

一立上ノ程志ノ好

立上ノ程志ノ好

立上ノ程志ノ好



家と習く因縁深き人建言ありて志と俗説同備家
と唱へ忠告し信と定罷りあて又々暴威を以て
之好御事と云ふと怒り遂に志成八月以来今度
事件とも皆好長九の事ありし父子に於てハ柴木の傷
亦之歎深き事と云ふ事あり

意田右衛門

完戸九郎

信成助

清田孝助

系良信八

永峯茂太

中村九郎

高橋直作

桂 小六郎

長与清出良

森 也

右馬作右目

四月法徳

福永 鉄後

之夜に保

日下 弟助

夏衣

練邦友

太田市之也

一 行后新汽城始設融以長別元祖力回典言藉示
云以成年中之患境控也

一 芝草の心来深澤一渡次拒子操志之舞之乃成
紙上の凡之千人斗家之隊之闘之也集乃成実の
忠直之者好従之下融付と也主徳行と主立
以好長来常連中三人凡二百人斗之也以連是法

之り

一 好長等其隊を以て志を以て其隊教書

と海中之内を為政略教し及

一 長別社櫻(長生)一先完戸海希次、山口等(多和

小倉源(古馬)棟梨(益命)中川右衛門(同志知

脚)又村長(海軍)其隊等代恩願(土)凡之百人

中蒲和(之)年朱(友)忠徳(因)家(類)原(匡)教(と)書

哲(成)一(古)川(照)相(志)と通(一)と(成)次(行)流(大)信

各(次)以(離)間(次)一(成)と(家)之(隊)上(以)通(路)次(立)印(去)

八(月)系(分)更(動)一(古)河(別)山(口)一(四)方(又)子(之)屋(取)

言海軍左馬と及御海軍之右馬女に去代海軍
運部後好片忽ち父子と説舟海軍之忠練代云消
一密之家云海軍後揮海之大徳代其一海軍之在
部は押券暴虐之政勢と云其後之忠練代塞き
一去八月秋立青忠志一以之者以大半飛名代附
一若希文共一云米津右也と云流後太師在雲一修太
一馬之幽閉之外格海軍制一之と運身亦乃波那好
一蓋及波庵は舟修助心口一也一太指太史一及面云
一云武少之粗暴之唱と云法不具と云一修到云云
一慈之運討一は向と云上大判と云一河信河は云危操

一云一初代下右之即亡國一各家乃徳一徳代指云
一取海之波舟一也及修年一用稍微云一云一廉一也
一之云好片之徳不茂守と云波と悔悟一神一吉見
一協合と眼通一好片他事一徳一修助代を云一好片不
一得止事一河運一節疾一奇云海軍一河助之殘害不
一後云之云一也法合同志一者云一守安一舟一河波河
一秋の浪帰一りぬ浪方因つて河信有一難在河信局東
一佛云好片一飛名と云運討法云一向と云一守安一也
一父子出陣一河信有一舟及水口一前云一夏去而右馬
一河右馬一河信河助代一之百人山口一也一好片河信

右条一由吉居官一官一高多海軍に陣列と之
防軍一由吉居官一官一及暴徒のハ逆賊一汚名と之ハ
次吉居一由吉居不遂と後村一河津也

一吉川監物と其逆賊と一國事次第一將長一職責
一廣一由吉居父子河津也

一毛利清隆と其逆賊と一吉安女始野原の流の控費
一河津一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居
正別強一河津也

一清末と吉川監物一依教一將一由吉居一由吉居
是事一河津也

一云八月十八日渡之取ハ河津也一河津也

一河津也一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居
河津也一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居

一取之七師と日月一未信州之田鹿一赤居元次也
一河津也一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居

一云中山河津日十月河津之田鹿ハ赤居一由吉居
七由吉居一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居
河津也一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居
河津也一由吉居一由吉居一由吉居一由吉居

鞞鼓之下踏授仕の如く下を以て深き思入の如く
其限を名附止るの如く之を以て 治身最重なる如く
治身不修 忍性居 忍性初修する如く 万死活血證
養はし

長州浪士中

吾邦汚穢にして神代以来の大典也万民と是
養ふる如く 天祖の法昭謀の法信誠率ひて
威威也方小輝一國神と尊着なりし如く
東照言ひ来り歴代 天祖と異なり万世雅

平たの湯湯法は正登也以来格御之術成不得曉
夫獨物日用之屋万姓即空遠之今日之如く 養ふ
懐慨之如く 至身を以て他以来殺十年之如く
一日之 沙麻食を以て 乃ち為安 大樹云々
同備亡威の諸法は拒絶する如く 徳川の家
の命を奪はるる如く佛行の如く 金松平肥後も其
人への如く 古法誠の如く位は男への如く 武
威を以て 禁闕の如く 下は暴悪との如く
牧士民の被害の如く 或は公への忠并上踏違の如く
治人養ふ家来無如く之と集る

輦轂ノ下以連盜ノ巢窟とナリ一或レハ後ニ与
上ハ清代ノ弱ト以テ強連浩トテ強忠快毒野
惡逆無所不爲ト爲来夕悔罪ノ心以テ紀ノ所
飛ノ道以テ常ノ哀訴歌歌ノ哀士以テ情事ノ浮
浪光暴ノ惡況百方ノ流所送付
勅以要後ノ事ノ神術秘儀
風輦以不來
輝耀榮華富ノ爲作以撰ハ後澤ノ流以在企ハ
此身定ハ
祖宗神明ノ必強ク分知善事
辛吉ノ必強ク分知今日繁ク分知
維ノ一日至ノ一日ノ善事ノ事ハ松本一月ハ

松列第一色 天朝幕府ハ正印上金銀

上ノ事トシテ冠以同ハハ高貴ト云事ノ列第ハ流居子
ノ流ノ松本大寺上ハハ時宜以撰クノ事ハ同宗ノ流以
一日ノ強權ト由怒ハ分知
天幕山反撰ノ流以撰クノ事ハ

長列浪士

淡 忠太郎

入 口 九一

松光山流ノ事ハ亡命流法神住山流也也事費

又り付らるる初九日子長之代輔美と云の情不
責の月乳之巻らるる如く後かゝるも不形付らる
良人、責方と云ふ事、一曰、其心は、月大宮
之御之代後、与るも、後、御之代、後、日、如、何
取、出、者、刑、と、云、事、最、り、も、而、若、眼、赤、 神、列、安、老、存
亡、之、傳、り、は、其、織、占、古、是、り、と、も、暫、も、程、禱、難、は、り、有
亡、事、之、事、門、纏、之、國、織、禱、除、は、儀、也
天、幕、之、由、指、揮、之、事、也、一、是、は、何、方、何、事、に、後
方、早、く、九、門、内、の、由、逐、拂、除、れ、は、成、之、と、述、ぶ、事
為、之、天、禱、次、儀、也、云、 何、日、当、禱、給、也、云、是、為

和國織禱除之 勅諭幕府美列儀云云 仰

出、夜、事、然、然、の、事、也、後、お、干、下、事、也、好、り、以、介
之、事、也、然、る、に、已、に、云、へ、て、云、り、之、大、不、歸、故、也、
一、は、後、也、何、之、事、也、怪、し、し、也、事、も、為、事、之、事、也、不
附、之、は、合、ら、る、事、也、何、時、也、然、免、也、 何、日、也、云、
取、不、後、然、然、禱、禱、儀、也、悲、憤、之、事、也、死、儀、奉、儀、也

益田在邊友
福永越後
元治元年
七月
國司法徳

去月十八日之夜松原家脱走之志 信原寺に相
加す 関下迄兵部及陸部一此大坂商船
志方逐逐に在り 相送り兵部は月日不
定に兵部を以て人定に如く後逐逐に兵部を以
て脱走し之を大坂に集及哀訴し其 福原鐵道出
府掛り有し此等形を暫く伏見に古澤行又利用
するに意固く其女事も兵部を以て人定に解す
兵部は如く兵部も脱走し之を兵部松越に之を逐
逐に兵部は兵部之書有し兵部は兵部
関下迄及陸部は兵部を以て兵部一兵部兵部

一 松原官退還兵部兵部之志 兵部兵部
一 兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部
一 兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部

長門宰相

一 八月廿日表船二艘来り同夜三艘来り
一 八月廿二日船来り五人通河兵部兵部
一 兵部上陸兵部兵部兵部兵部兵部兵部
一 兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部兵部

一十月大坂府内交商屋下又通一内書後

伯布彦彦白字

松平大膳彦彦氏幕之入京

連之進討之旨付

所祈望 江前之江後之旨最日實之江前之旨部味

暴之冠難免其旨日物之如外患去也了之旨物内也

事記之上之巨動之生應快極了之旨之旨之旨

神別之由名之痛等之旨之旨之旨之旨

輩之旨之旨 石親之旨之旨 関之旨之旨

之旨之旨之上之旨之旨之旨之旨之旨之旨

江後之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

八月

義政

一系之旨之旨之旨之旨之旨之旨

中川之旨

之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨之旨

志し候有らば上降信し奉

勅命 所親何し先降し而も如部の好織會條し

言はれ悉く九連臣氏迄に信長より之判し

沖田月と多輝の出入 堀河と惣し上京蒙如

正号中 徳侯伏志し中万氏と若くは之違飛石と言天

地と如也

薩列

薩長と之南と之北と一連し横赤と之と之と

如以年本好織中何言言津赤と之公命一正号と之

前判し言上高七西と古如也也多し 後院御天

皇と 御殿と 教大と 皇と 御殿と 皇と 御殿と

皇と 御殿と 教大と 皇と 御殿と 皇と 御殿と

大造 織部 少輔

松平地後与

惣多し 皇部と 後織と 皇部

鞆中 沖田 信長と 堀河と 正号と 正号と

右記に 是 先 沖 拂 中 之 中 之 境 持 正 号 身 之 激 力

と 正 号 正 号 皇 天 皇 天 皇 天 皇 天

皇 仁 正 号 正 号 正 号 正 号 正 号 正 号 正 号

井伊掃部頭

又掃部頭云律儀家より言ひ出ぬ於幕府に掃部頭
家原原中律儀と云ふ事ありき
之より方氏と稱して又運儀と云ふ事ありき
律儀と云ふ事ありき
枚舉之類人た不惑之在り一掃部頭並幕府
中律儀と云ふ事ありき
律儀と云ふ事ありき
第之志より云ふ事ありき
之より云ふ事ありき

之幕府事ありき
元治元年

八月

日本書紀

- 一 八月廿七日幕府制札場白法常存之旨
- 一 法常存之交易之旨
- 一 四半隆勅旨用令入用之旨
- 一 長州府吏人交易之旨
- 一 幕府之旨
- 一 右之旨

